

しなやか先端技術企業集団

環境にやさしいテクノロジーで未来を創造

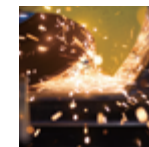
ワイエイシイホールディングス 株式会社

東証1部 証券コード:6298

事業フィールド



ハードディスク



精密熱処理



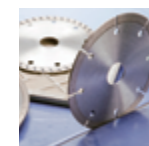
ディスプレイ



工業用計器・制御通信



半導体



精密切断



太陽電池



レーザープロセス



クリーニング



医療

第46期中間 ビジネスレポート

平成29年4月1日～平成29年9月30日



代表取締役社長
百瀬 武文

さあ今日も、
ときめきと感動の
日々であれ！

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに『第46期中間ビジネスレポート』をお届けいたします。

当第2四半期の業績は、メカトロニクス関連事業において増収・増益となったものの、全体としては計画未達となってしまいました。現状、足元の受注状況は順調に進んでおりますので、引き続き営業活動並びにコストの削減に努め、通期業績予想を上回ることが出来るよう、邁進してまいります。

また、当第2四半期の配当金は1株につき10円とさせていただきます。株主の皆様への利益還元を経営上の重要なテーマのひとつと位置づけ、業績や事業計画などを総合的に勘案し、安定的な配当を継続することを基本方針としております。引き続き競争力の強化に努め、株主の皆様への利益の拡大に努めてまいります。

当期は、「究極の理念」の実現に向かっての第一歩として、期初より社名を改め、ホールディングス体制を発足いたしました。グループ各社の連携と競争を促進し、業績の拡大を図ってまいります。

今後も既存事業における規模の拡大並びにM&A、アライアンスに積極的に取り組むとともに、「第4次産業革命」に関連した新商品の開発や、生産性の向上を目的とした「働き方改革」にも積極的に取り組み、更なる経営基盤の拡充を進めるとともに、より多く社会に貢献してまいります。

これからも引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年12月

創業理念

- 1.技術集約会社
- 2.旺盛なバイタリティー
- 3.リスクに果敢にチャレンジする
- 4.少数精鋭主義

成長理念

- 1.社員の豊かさを追求する(経済的、精神的)
- 2.国・地方自治体により多く納税する
- 3.新製品の創造・提供
- 4.地域社会への貢献
- 5.株主を優遇する
- 6.環境保全のため省資源・省エネルギーを図る

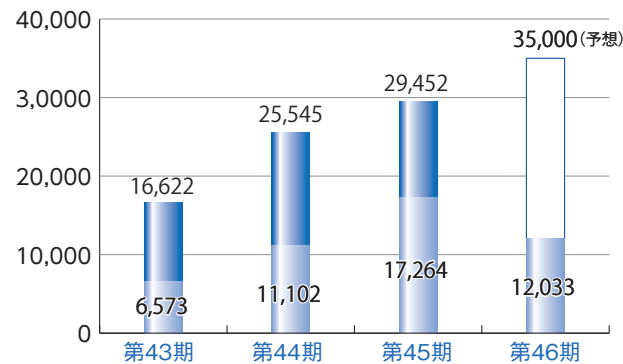
究極の理念

- ～より多く社会に貢献するために～
- 1.社員の成長
 - 2.雇用の拡大
 - 3.雇用条件の向上
 - 4.納税額の拡大

	第43期	第44期	第45期	第46期中間	第46期通期(予想)
売上高	16,622百万円	25,545百万円	29,452百万円	12,033百万円	35,000百万円
経常利益	966百万円	546百万円	1,122百万円	310百万円	1,500百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	639百万円	28百万円	790百万円	151百万円	1,000百万円
1株当たり純資産額	1,521.09円	1,482.87円	1,545.38円	1,557.26円	—
自己資本比率	54.9%	38.1%	42.5%	39.0%	—
配当金	20円	20円	20円	10円	20円

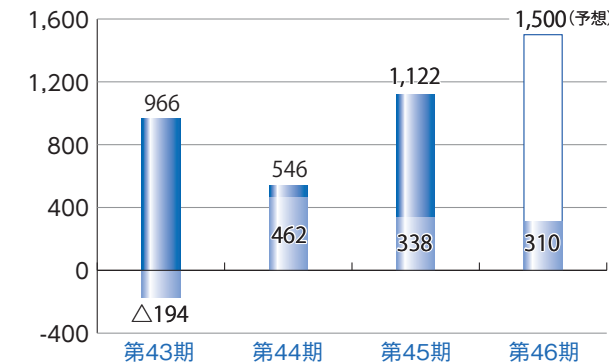
売上高

■ 中間 ■ 通期 (単位:百万円)



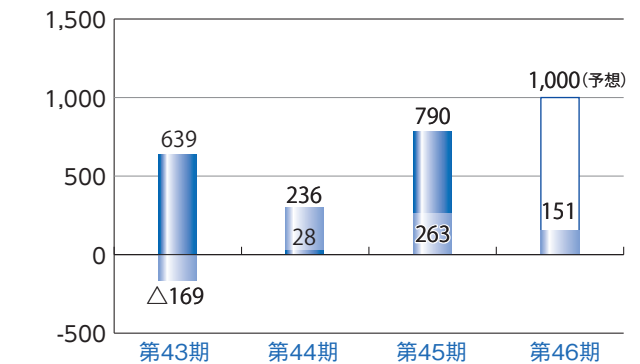
経常利益

■ 中間 ■ 通期 (単位:百万円)



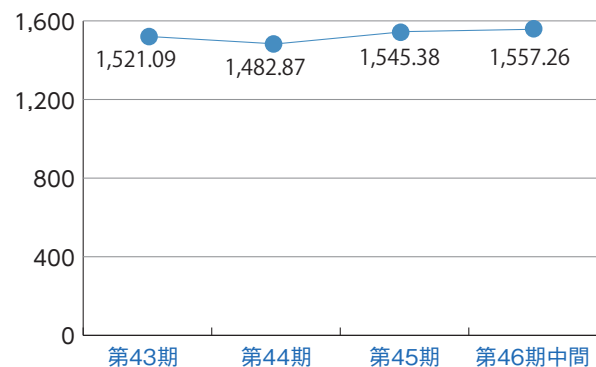
親会社株主に帰属する当期純利益

■ 中間 ■ 通期 (単位:百万円)



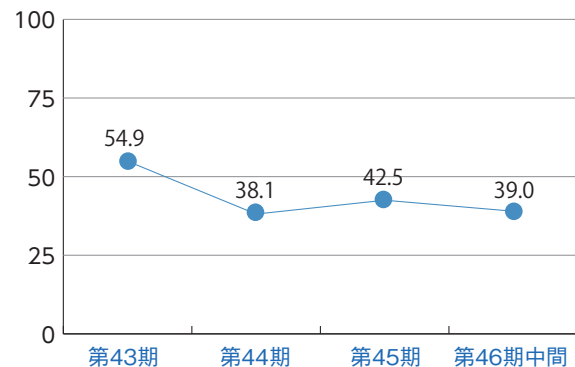
1株当たり純資産額

(単位:円)



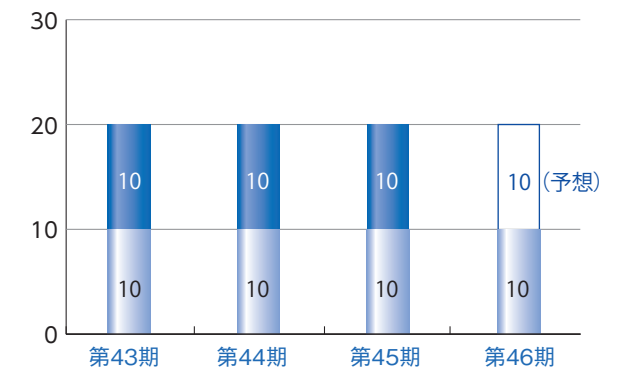
自己資本比率

(単位:%)



配当金

■ 中間 ■ 通期 (単位:円)



◆事業概況

当第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日)における世界経済は、米国では雇用の改善を背景に個人消費が順調に推移するなど、堅調な成長が続きました。欧州では個人消費が牽引し、底堅く推移しました。中国においても個人消費や輸出が堅調に推移するなど、総じて着実な回復基調で推移しました。一方で、北朝鮮を巡る軍事的緊張が高まっており、警戒感や先行き不透明感が広がっております。

日本経済においては、政府・日銀による経済政策を背景に、雇用の着実に改善し、個人消費も堅調に推移するなど、総じて着実な回復基調で推移しました。

このような経済状況のもとで、当社グループは、刻々と変化する顧客ニーズを捉えた装置の開発と市場化に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高120億33百万円(前年同期比30.3%減)、営業利益2億33百万円(同60.0%減)、経常利益3億10百万円(同8.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益1億51百万円(同42.6%減)となりました。

◆経営の現状と通期見通し

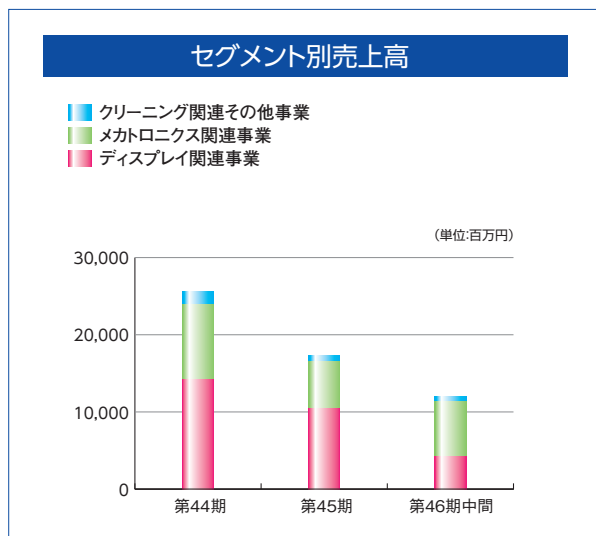
今後の見通しにつきましては、世界経済は先行き不透明感が広がっているものの、好調な米国に支えられ、中国、欧州、国内とも足

元の景気は改善傾向にあり、総じて緩やかな回復基調が続くものと思われれます。

このような事業環境のもと、当社グループにおきましては平成29年4月1日をもって持株会社体制に移行いたしました。ここ数年のM&Aにより拡大した当社グループ間の更なる連携強化を図るとともに、将来に向かって成長を継続するための強固な組織基盤の構築を図ってまいります。

通期の業績は、連結ベースで売上高350億円、営業利益20億円、経常利益15億円、親会社株主に帰属する当期純利益10億円を予想しております。

セグメント別の状況



ディスプレイ関連事業

エッチング装置及びアニール装置の売上遅れ等により、前年第2四半期連結累計期間の実績に対して減少しました。

これらの結果、ディスプレイ関連事業の売上高は41億84百万円(前年同期比59.8%減)となり、セグメント損失は2億19百万円(前年同四半期はセグメント利益5億32百万円)となりました。

メカトロニクス関連事業

前連結会計年度下期より連結対象となったワイエイシイエレクトクス株式会社が当連結会計年度においては期初から業績に寄与しているため、業績は総じて堅調に推移しました。

これらの結果、メカトロニクス関連事業の売上高は72億20百万円(前年同期比18.0%増)となり、セグメント利益は3億78百万円(同5.2%増)となりました。

クリーニング関連その他事業

クリーニング関連装置分野においては、国内のクリーニング需要の減少傾向が続く厳しい環境の中、微減となりました。

これらの結果、クリーニング関連その他事業の売上高は6億29百万円(前年同期比14.6%減)、セグメント損失は85百万円(前年同四半期はセグメント利益1億9百万円)となりました。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 平成29年9月30日現在	前連結会計年度末 平成29年3月31日現在
【資産の部】		
1 流動資産	28,374	24,308
固定資産	7,413	8,162
有形固定資産	5,542	5,446
無形固定資産	827	890
投資その他の資産	1,043	1,825
資産合計	35,788	32,470
【負債の部】		
2 流動負債	14,657	10,907
固定負債	6,940	7,515
負債合計	21,597	18,422
【純資産の部】		
株主資本	14,107	14,001
その他の包括利益累計額	△152	△203
新株予約権	51	46
非支配株主持分	184	202
3 純資産合計	14,191	14,047
負債純資産合計	35,788	32,470

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期累計期間 自平成29年4月1日 至平成29年9月30日	前第2四半期累計期間 自平成28年4月1日 至平成28年9月30日
売上高	12,033	17,264
売上原価	9,345	14,455
販売費及び一般管理費	2,454	2,224
営業利益	233	584
営業外収益	115	31
営業外費用	38	277
経常利益	310	338
特別利益	1	25
特別損失	71	4
税金等調整前四半期純利益	239	359
法人税等	98	83
四半期純利益	141	275
非支配株主に帰属する四半期純利益	△10	12
親会社株主に帰属する四半期純利益	151	263

4 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期累計期間 自平成29年4月1日 至平成29年9月30日	前第2四半期累計期間 自平成28年4月1日 至平成28年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,245	2,665
投資活動によるキャッシュ・フロー	△376	△1,038
財務活動によるキャッシュ・フロー	50	△64
現金及び現金同等物に係る換算差額	12	△153
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,932	1,408
現金及び現金同等物の期首残高	6,703	5,155
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△28	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,607	6,564

POINT 1 流動資産

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は283億74百万円となり、前連結会計年度末に比べ40億66百万円増加しました。主な増加要因は仕掛品21億33百万円、現金及び預金19億15百万円、有価証券9億6百万円であり、主な減少要因は受取手形及び売掛金10億64百万円であります。

POINT 2 流動負債

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は146億57百万円となり、前連結会計年度末に比べ37億50百万円増加しました。主な増加要因は支払手形及び買掛金26億53百万円、短期借入金7億92百万円、前受金2億19百万円であります。

POINT 3 純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産は141億91百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億43百万円増加しました。その結果、自己資本比率は39.0% (前連結会計年度末は42.5%)となりました。

POINT 4 連結キャッシュ・フロー計算書

当第2四半期累計期間における営業活動による資金は、22億45百万円の増加(前連結会計年度は、26億65百万円の増加)となりました。

これは主に

■プラス要因

- (1) 当第2四半期累計期間における仕入債務の増加で26億53百万円
- (2) 売上債権の減少で10億56百万円

■マイナス要因

当第2四半期累計期間におけるたな卸資産の増加で22億79百万円の影響によるものです。

また、有形固定資産の取得による支出3億19百万円等により投資活動による資金で3億76百万円減少、短期借入金の増加9億20百万円等により財務活動による資金で50百万円増加した結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は86億7百万円に増加しました。

日立のイオンビーム応用装置製造事業を譲受

2017年2月1日付にて、日立のイオンビーム
応用装置製造事業を譲受しました。

日立の子会社である株式会社日立茨城テクニカルサービスは、加速器や核融合のプラズマ加熱に必要な中性粒子入射装置の開発を手掛けており、この核融合技術の中から生まれた高精度の微細加工に適した独自のバケット型イオン源技術を用いて、薄膜磁気ヘッドなどの微細加工を行うイオンビーム応用装置製造事業を展開してきました。

主力製品であるイオンビームミリング装置は、微細加工を行うドライエッチング装置で、低エネルギーでも大電流のイオンビームが発生でき、かつイオンビームに均一性があり発散が少ないといった特徴を持っています。

このため、金、白金、銅をはじめ金属や磁性体、酸化物など特殊材の微細加工などに適しており、MEMSやセンサー、パワーデバイス、高周波デバイス、光デバイスなどの製造にとって重要な装置となっています。

今回の事業譲渡を受け、イオンビーム応用装置製造事業の拡大と、さらにはワイエイシイのコア技術をも活用したシナジー効果を図った発展を目指します。

今後ともこれら技術をさらに発展・進化させ、より高品質の製品をお届けすることにより、お客様の信頼を得て、社会に貢献してまいります。



マルチチャンバ(2室)タイプミリング装置



手動搬送 ロードロックミリング装置



自動搬送ロードロックミリング装置



大型イオンビームスパッタ装置

ワイエイシイグループの構成

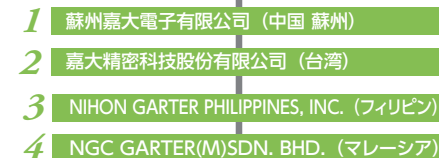
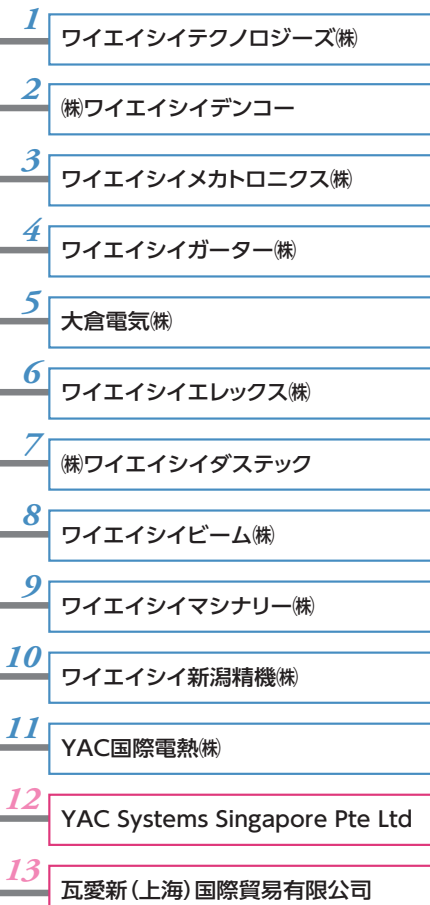
ワイエイシイホールディングス傘下 全17社

国内グループ会社 11社

海外グループ会社 2社

海外孫会社 4社

ワイエイシイホールディングス(株)



会社概要

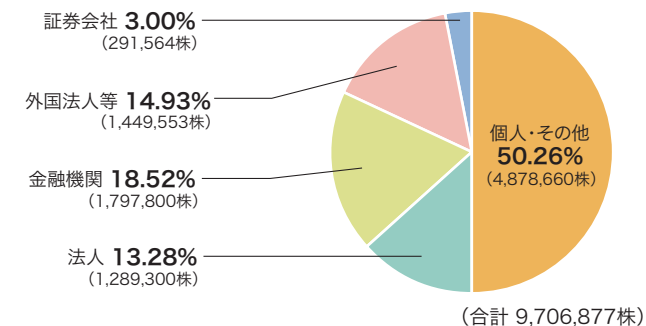
商号 ワイエシイホールディングス株式会社
 英文表示 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD.
 本社 東京都昭島市武蔵野三丁目11番10号
 設立 昭和48年5月11日
 資本金 2,778百万円
 従業員数 46名 (連結955名)
 (出向社員・契約社員等の臨時雇用者含まず)

株式の状況

会社が発行する株式の総数		34,388,000株
発行済株式の総数		9,706,877株
当期末現在の株主数		4,987名
個人・その他※	4,815名	4,878,660株
法人	36名	1,289,300株
金融機関	25名	1,797,800株
証券会社	40名	291,564株
外国法人等	71名	1,449,553株

※自己株式を含みます。

所有株式数分布状況



役員・執行役員

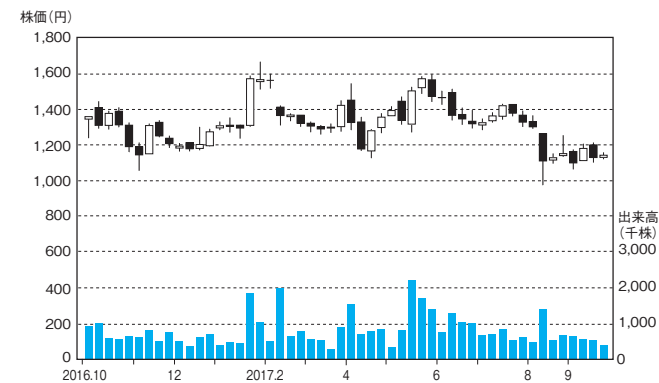
代表取締役社長	百瀬 武文
取締役常務執行役員	副島 幸雄
取締役常務執行役員	寺本 和政
取締役	佐藤 康男
取締役	伊藤 利彦
取締役	大福 芳弘
取締役	福田 辰徳
取締役	大倉 章裕
取締役	久保 進
取締役	石田 祥二 ※社外取締役
取締役	木船 常康 ※社外取締役
常勤監査役	古橋 博
監査役	高田 直規 ※社外監査役
監査役	飯田 哲郎 ※社外監査役
執行役員	坂本 克幸

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社モトタケ	1,220	12.56
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	637	6.56
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	430	4.42
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	416	4.29
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	325	3.35
百瀬 武文	286	2.95
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/ACCT BP2S DUBLIN CLIENTS-AIFM	170	1.75
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	144	1.49
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	133	1.37
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	118	1.21

※当社は、自己株式を745,801株保有しておりますが、大株主からは除外しております。

株価・株式売買高の推移(週足)



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日	同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
期末配当金受領株主確定日	3月31日		郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
中間配当金受領株主確定日	9月30日		
定時株主総会	毎年6月		
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社	上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社	公 告 の 方 法	電子公告により行います 公告掲載URL http://www.yac.co.jp/ (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご紹介

株主・個人投資家の方々に対しての
当社の状況をわかりやすく伝えたコンテンツを
提供しております。

<http://www.yac.co.jp/>

または、

で検索ください。

ワイエイシイホールディングス 株式会社

〒196-0021 東京都昭島市武蔵野3-11-10
TEL:(042)546-1161(代表) FAX:(042)546-1107
URL <http://www.yac.co.jp>